

まんだら通信

第129号 (通巻159号)

平成19年(2007)03月 佛誕2573年

295-0103 千葉県南房総市白浜町滝口1084
真言宗智山派 天神山 紫雲寺 高橋 龍涉
郵便振替 00120-2-43163 紫雲寺
TEL0470-38-4740/FAX 0470-30-5040
URL <http://www.awa.or.jp/home/ryusho/>
E-mail ryusho@awa.or.jp

千の風になつて

私のお墓の前で 泣かないでください
そこに私はいません 眠ってなんかいません
千の風になつて
千の風になつて
あの大らかな空を
吹きわたっています

秋には光になつて 畑にふりそそぐ
冬はダイヤのように きらめく雪になる
朝は鳥になつて あなたを目覚めさせる
夜は星になつて あなたを見守る

私のお墓の前で 泣かないでください
そこに私はいません 死んでなんかいません
千の風になつて
千の風になつて
あの大らかな空を
吹きわたっています

千の風になつて
千の風になつて
あの大らかな空を
吹きわたっています

あの大らかな空を
吹きわたっています

あの大らかな空を
吹きわたっています (訳詩 新井 満)



二月二十六日、太田利一先生が亡くなりました。まだ六十八歳。

ご退職後、町の社会教育委員や合併協議会、体育協会長や町の文化協会ほか、色々の役職に就いておられ、お互いにゆつくりお話しをする機会はなかったのですが、何れ合併も済んで身体にゆとりが出来たらと楽しみにしていた矢先、ご病気の話を聞きました。

会議などでお会いすると、「腰が痛くて、長く腰掛けていたのが辛いんですよ」ということは聞いていましたが、まさかこんなにお別れが早いとは思ひ及びませんでした。

他人の私でさえこれほど辛いのですから、ご家族の心の痛みはいかばかりかと思ひ、斎場の山ノ内さんにお願ひして、お通夜のお経の後にこの『千の風になつて』(歌っているのは中島啓江さん)の歌を放送してもらひ、「先生は私たちの前から見えなくなりしましたが、お聞きの歌のように、その心はいつでも何処にでもいてくれます。亡くなった人が、手の届かない遙か遠くに行つてしまふのではなく、呼べば聞こえるすぐ近くにいるという考え方は、私たちが縄文時代から受け継いで来た日本人の心です。」

苦楽を共にしてきた奥様のお心の痛みは、私などの想像を遙かに超えると思ひますが、そのような時はこの詩を思いだして下さい。」と、短いお話しをしました。

以前から、この詩によつて慰められてきた人も多いと聞きますが、昨年暮れの『紅白歌合戦』で歌われて以来、静かなブームになつてゐることは、ご存知の方も多思ひます。

作詞者不明ということになつていますが、三年前九十九歳で亡くなつた、アメリカのメアリー・フライという女性が、八十年ほど前に友人のために書いた詩、ということが定説に近いのだそうです。

日本では、数年前に芥川賞作家でシンガーソングライターの新井満さんが詩を訳

し曲を付けて、これも友人に贈つたものだと思います。

もとの詩は『私のお墓の前に立つて泣かないで下さい』という題名で、新井満さんの『千の風になつて』とは内容が大分違い、意識という方が相応しいと思ひます。

けれども、「私は見えなくなつただけで、死んだではありません。あなたが眼にするあらゆる所、あなたのすぐ傍にいます。すから悲しまないで下さい。」という趣旨は全く同じで、『千の風になつて』の詩の方が、私たちには馴染みやすいと思ひますし、それ故、多くの人の心を打つたのだと思ひます。

ところで、山や川、草木など、眼にする総ての物に神や仏が住んでいるという考え方は、日本人だけでなく世界の色々な人達が持つていました。

アイヌの人達にとつて、川は神様がいる神聖な所なので、洗濯などで汚すことはしないとのことですし、私たちも「お米の一粒一粒に菩薩さまがいるのだから、粗末に扱うと目がつぶれる。」と教えられました。

脱線序でに言うとう、自然の力を畏れ敬うという、こういう考え方を「荒唐無稽」とバカにしてきたツケが、地球の環境破壊に繋がつたのですし、更に言えば昨日今日の「自分が儲かるのなら、お墓の金物も道路の側溝のフタも、盗んでしまえ。」という、心の貧しい人を作つてしまつたのだと思ひます。



大作場の鈴木行政書士事務所さんや農業委員で本郷区長の鈴木重和さんには、特にご苦勞をお掛けしました。

遅ればせながら、あらためてお礼を申し上げます。この畑は、先代が新潟から晋山した時、一緒に連れて来た「いもごじいさん」が、晩酌を楽しみに一畝一畝開墾したものだそうです。農業機械が通る道もないし、こんなご時世ですからそのまましておく他ないのですが、何時かはきっと役に立つ日が来ます。淳二さん有難うございました。◆今月の野草。ごまのはぐさ科ムラサキサギゴケと思つたのですが、違うようです。春の畔などに咲きます。花の大きさ、5ミリぐらい。葉は1.5センチです。

07/03/09 龍涉

次号で、もう少し詳しいことをお知らせ出来ると思ひますが、沢山の皆さんに聴いて戴きたいので、入場料を2,500円という破格の設定にしました。

まだ先のことですが、是非予定に加えて下さるようお願い致します。

◆裏の畑が帰ってきました。

敗戦後、連合軍最高司令官総司令部(GHQ)の指令があつて「農地解放」され、お寺の農地もお檀家の名前になっていました。面積は合わせて1町歩以上。「時代が変わつたら」という約束通り、皆さんの理解のお蔭で多くの田畑が帰りました。

この度、鈴木淳二さんがお寺の裏の畑約6畝を、費用一切をご自分持ちで返して下さいました。

◆今年の冬は観測史上初めてという暖かさだったとか。

ところが、3月に入つてからは真冬と春の陽気が交互にやつてきて、身体の調子がおかしくなつてしまいました。中国やインドの急な経済発展が、おかしさの後押しをしているのかな、などと思つてしまいます。

◆去年秋に続き、7月7日七夕さまの日に、コンサートをするのが決まりました。木琴の原形で、アフリカセネガルの民族楽器バラフォンと、カリブ海地方のスチールドラムの演奏が楽しみです。

中村達也さんは本格派のジャズ・ドラマーで、世界を股にかけて活躍している実力者です。

余滴